

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 8 日現在

機関番号：13201

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23520374

研究課題名(和文)「16世紀絵入り年代記集成」の文献学・図像学的研究

研究課題名(英文)Philological and iconological study of "The Illustrated Chronicle of Ivan the Terrible"

研究代表者

中澤 敦夫 (NAKAZAWA, ATSUO)

富山大学・人文学部・教授

研究者番号：90242388

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円、(間接経費) 780,000円

研究成果の概要(和文)：16世紀ロシア国家的事業として編纂された「16世紀絵入り年代記集成」は、国家の支配者イデオロギーを歴史的に研究するための最適な史料である。本研究では、この年代記の刊本テキスト・挿画を用いて、先行の諸年代記との対照によってその編集史的な特徴を明らかにし、挿画における絵師の独自のテキスト解釈を分析した。

1380年と1382年の記事として収録されている戦記物的な部分を研究した結果、テキストは人物を称賛・聖化する方向で改変されていること、図像については、基本的には文字通りのテキストを図像化が指向されているが、幾つかの副モチーフにあたる部分の描写で、絵師の独自の解釈が行われていることが分かった。

研究成果の概要(英文)：The Illustrated Chronicle of Ivan the Terrible, the facsimile edition of which has been published recently, is one of the most appropriate sources for studying historical ideology of Muscovy Tsardom in 16th century. We have contrastively analysed its texts with preceding chronicles, and also have studied miniature-illustrators unique interpretations of texts.

Preliminary study on articles of 1380 and 1382 shows that texts has been modified by the chronicle editors for admiring and even sacralizing historical personalities. Basically miniatures are faithful iconological description of texts, but partly in secondary motifs we can find unique interpretations of illustrators.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・ヨーロッパ文学(英文学を除く)

キーワード：中世ロシア 年代記 写本挿画 文献学 図像学

1. 研究開始当初の背景

「16世紀絵入り年代記集成」(以下「年代記集成」と略称する)と呼ばれるこの年代記は、1550年代～60年代にイワン雷帝が全国の絵師と写字生を動員して、国家事業として制作させた記念碑的文献である。原写本は、10巻からなり、各巻は大判一千葉をこえる大部の書物で、新たに編集された年代記テキストを含み、さらにほとんど各頁に、テキストに対応する細密な挿画が施されている。2010年～2012年にロシアで公刊された、この年代記の刊本は、原写本の第4～10巻を「ファクシミリ版」で再現したもので、1114年～1567年のロシアの歴史をカバーしており、そこに含まれる挿画は10057点と膨大な数に及んでいる。

これまで、原写本が「国宝」級の稀覯書であったこと、ロシア国内の3カ所の文書館に分散して保管されていたことから、一般の研究者が「年代記集成」に触れること、とくに挿画を直接閲覧することはほとんど不可能だった。そのため、資料の存在は知られていたものの、ロシア年代記研究、文化史研究の分野で、本年代記が利用されることは稀であった。

それが、「ファクシミリ版」の刊行によって、ようやく一般の研究者の利用が可能となったのである。さらに、この出版に先行して、「年代記集成」の校訂テキストが2006年に刊行されている。このように、近年になって、「年代記集成」研究の条件がととのったのである。

また、これまでロシアにおいても、数は僅かであるが、「年代記集成」を用いた、歴史学、歴史図像学、考古学、中世文化史の分野での研究は行われてきた。これらの研究は、刊本が広く研究者のものになったことによって、当然、より深く検討され、参照されることになった。こうして、散発的ではあるが、ようやく各分野で「年代記集成」の実質的な研究が始まったのが現状である。

2. 研究の目的

以上のような研究環境の大きな変化を受けて、今後は、中世ロシアを対象とした歴史、文化史、考古学、歴史図像学など様々な分野で、この貴重な史料である「年代記集成」を用いた研究が、急速に推進されていくことが予想される。

しかしながら、膨大な資料が一挙に研究者の手に渡ったために、その全体像が見渡し難く、史料的位置づけや価値が定まらないまま、断片的に用いられるおそれがある。実際、上に述べたように、挿画の研究は帝政時代から僅かではあるが進められてきたが、テキストについては、その文献学的な研究、年代記編集史全体における位置づけなど、ほとんど

なされていないのが現状である。

さらに、史料として「年代記集成」を用いる際の、方法についても、実際の研究が進んでいないことから、不明なことが多く、これからの様々な分野の研究者の試行錯誤の中で試されていくと思われる。

そこで、研究代表者は「年代記集成」の文献学・図像学・文化史研究の最初の段階として、これに関する基礎的なデータ・ベースを作成することを、本研究の第一の目的として設定した。これによって、少なくとも史料としての全体像を見通すことができ、具体的なテキスト・挿画の検討、分析に移る際に、全体における方向付けが可能となる。

さらにまた、このように作成したデータ・ベースを用いて、具体的な記事を選び、文献学的・図像学研究に取り組み、部分的な「年代記集成」の史料的価値、研究上の意義を明らかにしていくことを次の研究目的とした。これについては、「年代記集成」の中の典型的な記事、作品を選んで行うことになる。その際に、これまでの年代記研究と異なり、テキストと挿画の関係に注意を払うことが重要である。

総じて、これから急速に進展すると思われる、本年代記研究の基礎固め作業を行うこと、部分的な、具体的な記事を対象にテキストと挿画の分析を行い、今後の研究の方法論的な方向付けを行っていくことが、本研究の目指すところである。

3. 研究の方法

「年代記集成」の基礎データ・ベース作成はテキストと挿画についての二本立てで行った。

テキストについては、16世紀に編纂され、「年代記集成」に先行する代表的な年代記、「ニコン年代記」と「階梯書」の電子データを作成した。この二つの年代記は諸研究者によって、明らかに「年代記集成」に影響を与えていることは指摘されてきたが、研究対象が膨大であることから、その影響関係について、全体的に論じられることはこれまでなかった。このようなテキストのデータ化は、「年代記集成」の文献学的な総合研究の第一歩となる。

さらに、これまで作成していた「ラヴレンチイ年代記」「イパーチイ年代記」「ノヴゴロド第一年代記」等の初期年代記のデータにも手を入れ、使いやすいようにした。

挿画については、刊本を用いて、ロシアの歴史をカバーする部分の挿画10057点をすべてスキャンニングで読み取り、画像ファイルを作成した。また、すべての画像のファイル名に出典、時代に関する情報を加え、検索可能なファイルとした。さらに、個々のファイルに、挿画に描かれている、建築、衣服、武

器、器物、慣習、儀式などが参照できるような補助情報を加える作業を始めたが、これについては、一点一点について考察が必要な作業であるため、以下に述べるように、具体的なテキスト、画像分析を行った約 300 点の挿画について行うにとどまった。

以上、作成したデータをもとに、まとまりのある「年代記集成」の部分を選んで、出典との影響関係を探る文献学的研究、絵師によるテキストの独自解釈を探る図像学的な研究を行った。これについては、ロシア、ウクライナ等の国で実績のある、年代記の文献学（編集史）の諸研究を参考にした。また、挿画の研究については、西欧中世史の分野で盛んに行われている歴史図像学、美術史分野のイコノロジーなどの研究成果を参照した。

なお、文献学および図像研究の方法論については、学会参加や文献収拾の際に訪問した、ペテルブルグ、モスクワ、ワルシャワ、クラコフなどの年代記研究者との意見交換によって得たアドバイスを参考にすることができた。

4. 研究成果

本研究の期間内には、以上のような方法で作成したテキストと挿画のデータ・ベースを用いて、1380 年『ドン川におけるドミトリー・イワノヴィチと諸公の戦い』、1382 年『トフタムシシ＝ハンのモスクワ攻略とリャザン占領の物語』の部分について、年代記テキストの文献学的な詳細な対照分析を行い、さらに、挿画絵師によるテキストの独自解釈に注目しながら、挿画の図像学的、図像解釈学的な研究を行った。

14 世紀末のモスクワ国家にとって重要な事件を描いたこの部分のテキストについては、16 世紀前半に編集された「ニコン年代記」からの影響が圧倒的であり、「階梯書」「ソフィア第一年代記」(?) による部分的な補正がなされていることが分かった。しかしながら、当該の部分については、「年代記集成」編者の独自な加筆、改変は認められず、純粋な「切り貼り」であることが分かった。

これについては、ツァーリに献呈するための純粋な「正史」として編纂されているために、編者も保守的な編集方針で臨んでいることが推察される。

さらに、当該部分の挿画を分析した結果、基本的には、テキストの内容を文字通り再現するかたちで図像が構成されており、また、主要な事件、人物、背景設定については、「年代記集成」全体に共通する、イコン画をベースにした伝統的な画法が用いられていることが分かった。

しかしながら、興味深いことに、幾つかの副モチーフにあたる部分的な描写（王冠、馬

具など）では、テキストにない独自の描写、解釈が行われていることが分かった。それらを細かく検討すると、おおむね、描かれている人物を称賛、聖化する方向をもっていることも判明した。

以上行った分析は、原写本の 300 葉分を対象としているとは言え、年代記全体に比べればわずかな部分に過ぎない。他の部分についても同様な傾向が見受けられるかどうか、また、年代記記事の時代によって、挿画絵師の独自解釈には違いがあるのかどうか、など興味深い課題が浮上した。これについては、今後の研究課題となる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 2 件)

中沢敦夫「ニコライ・カラムジンの歴史叙述における「広い心」(великодушие)について」富山大学人文学部『人文学部紀要』58 号、2013 年 2 月、211-232 頁。

Ацуо Накадзава. «Великодушие» в историческом повествовании Н. М. Карамзина. Acta Slavica Iaponica Tomus 34, 2014. pp. 1-15.

[学会発表](計 4 件)

中沢敦夫「『16 世紀絵入り年代記集成』研究の可能性」(2011 年度日本ロシア文学会中部支部研究発表会(2011 年 7 月 23 日、於：愛知淑徳大学星が丘キャンパス))

НАКАДЗАВА Ацуо Святость в русском и японском изобразительном искусстве: компаративное изучение. // Доклад на Международной научной конференции "Актуальные вопросы изучения славяно-русской агиографии" (Четвертые Лихачевские чтения), 28 ноября - 2 декабря 2011 г. (2 декабря, 2011 г.)

Накадзава А. «Великодушие» в историческом повествовании Николая Карамзина. 国際学会《2012 俄羅斯語言學暨文學國際論壇》(「ロシア言語学とロシア文学 - 2012 年」)(2012 年 12 月 7 日、於：淡江大學俄國語文學系(台北市))

中沢敦夫「近代ロシア・イコン研究の問題と課題について」、2013 年度日本ロシア文学会中部支部研究発表会(2013 年 7 月 20 日、於：愛知淑徳大学星が丘キャンパス)

[図書](計 3 件)

中沢敦夫『ロシア古文鑑賞ハンドブック』群像社、2011 年 10 月、440 頁。

中沢敦夫、宮崎衣澄 『暮らしの中のロシア・アイコン』 東洋書店(ユーラシアブックレット No.176) 2012年10月、64頁

中澤敦夫、宮崎衣澄 『西田美術館のロシア・アイコン(調査報告書)』、西田美術館、2013年7月、265頁

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

中澤 敦夫 (NAKAZAWA, Atsuo)

研究者番号：90242388

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：